

中津川市地域医療実習 感想文

島根大学 4年生 氏名 白鳥博之

再び、地域実習に行けるとは思いませんでした。今回はまさにアレンジ実習でした。中津川市という地域をもっと知りたいと思い、もう一度申し込みました。移動日も含め 5 日間で印象に残ったことは、伴信太郎先生の診療でした。先生の診療は患者さんと向き合い安心感を与えながら寄り添っていくようなそんな姿に私は感銘を受けました。将来少しでも近づきたいと思う先生でした。

また夏の実習に見学させていただいた、阿木地区にある特別養護老人ホームのシクラメンで、今回は志水さんに貴重なお話を聞くことができたのも勉強になりました。その話の中でも「ごちゃまぜ会議」の内容は興味深かったです。地域で働く様々な職種や業種の人々が阿木地区のことについて話し合うという会議です。特に子どもたちのことを地域で守るような取り組み(下校時間になると子どもたちが自ら町内放送で自分たちが下校することを伝え、見守りを願うような取り組み)がなされていてとっても素晴らしいなと思いました。

地域のことをさらに知ることができたのは加子母地区で山守の末裔である内木さんから林業の話聞いたことです。「山守!？」なんだろう。と最初は思いました。山守とはその字の通り、山を守る人です。江戸時代から藩に任命されて山を守っていた人のことを言うようです。国土の 4 分の 3 は山地を占める日本ですが、山の災害を解決するのは、もしかしたら現在の主流であるドイツ式の林業ではなく、昔から続く日本式の林業なのかもしれないと話聞いて驚きました。一見、医療とはかけ離れているのでは?と思う方もいるかもしれませんが。しかし、どのような人たちがどのようにその地域を作ってきたかという歴史を知ることで、よりその地域性とそこの人たちを知るきっかけになったと私は思っています。

中津川市で 2 次救急を担っている中津川市民病院にも今回は実習をさせていただきました。残念ながらドクターカーの実習はお預けでしたが、興味があった小児科の外来を見学させていただきました。子供に対する問診の難しさ、そして今までの知識が点でしかないと実感しました。問診からどのような疾患が頭に浮かぶかというトレーニングは、これから臨床実習が始まるのもっともつとしたいと思います。実習以外で嬉しかったことは、夏に引き続き「くつかけの湯」に泊まらせていただいたのですが、女将さん方が私のことを覚えていてくださったことです。近所の方も来てくださり、コタツを 4 人で囲んで色々な話ができ、ほっこりできたのはとっても嬉しかったです。いつまでもお元気でいてほしいです。

最後に、夏よりもさらに中津川市という地域をどっぷりつかり、経験できた 5 日間でした。中津川市地域医療実習に来られる学生さんが少ないという話を聞きました。本当にもったいないと思います。こんなに素敵な地域医療実習は全国でも少ないと私は思っています。

夏に引き続き、実習を快く受け付けていただきありがとうございました。またご縁があることを楽しみにしています。最後に名古屋大学医学部附属病院総合診療科の安藤友一先生、中津川市地域総合医療センターの高橋春光先生、毎回送迎や日程調整をしていただいた佐藤さん、早川さん、鈴木さんをはじめスタッフの皆様へ感謝申し上げます。本当にありがとうございました。